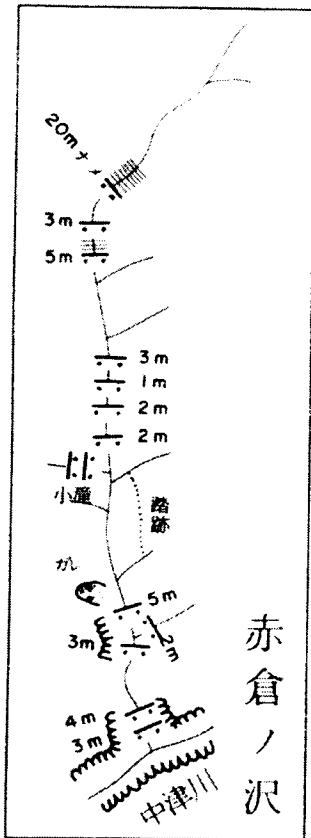


赤倉ノ沢

上野
一九八四年七月二日

ゲートの所から一時間程中津川林道を歩いて赤倉ノ沢出合に到着。このあたりの中津川本流は、ちよつとした廊下となっていて、なかなか迫りがある。赤倉ノ沢には中津川本流を渡渉してとりつく。

出合の雰囲気在上々なので、期待して遊行を開始したのだが、最初の小滝二つを越すと平凡になってしま



赤倉ノ沢

った。この地域の沢の特徴の一つとして、出合にたてつづけにいくつかの滝をかけ、「これはすごいぞ」と期待を持たせた途端に平凡になってしまい、また源流に滝をかけるケースがある。この赤倉ノ沢もそれでないかと思ひ、更に先を急ぐ。

八時四〇分、二〇㊦の大きな滝に到着。やはり最後に大きな滝が出て

きた。全体がナメ状になっており、ホールド豊富で、楽に直登できる。

あとは平凡な



中津川を渡って赤倉ノ沢に取り付く

まま源流となってしまった。九時三〇分、水の流れもなくなり、沢の窪みも消えてしまった。次の上赤倉沢(仮称)の下降に移るべく、九一〇・八㊦の三角点峰めざしてヤブこぎに入る。

九一〇・八㊦三角点峰の山頂は、ヤブにおおわれた広い平坦地で、三

角点を探し出すことは出来なかった。

(記)

「タイム」 赤倉ノ沢出合(七:三〇)

↓遊行終了(九:三〇)↓九一〇
八号三角点峰(九:四五)

浮小屋沢

上和身 巧・カトイキ
一九八六年六月二十八日

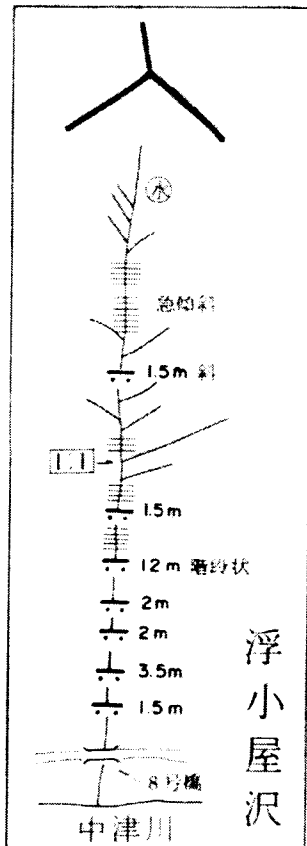
山の神沢左俣の遊行終了後、稜線より浮小屋沢に下降する。一五分程のヤブこぎで沢に出る。すぐ水の流

れが現れる。

所々三層程のナメ状滝がまざる急坂を過ぎると、急傾斜のナメとなる。

しばらくナメを下ってゆくと、一・

五層の斜瀑が現れる。このあたりまでくると、沢の傾斜もゆるくなり、



やがて二俣となる。

平凡な河原をしばらく歩いたあと、再びナメ床が現れる。そして一二層階段状の滝。右岸をなんとなく下降。

その後は、何本かの小滝を越える。二本続く四層滝を越えると、中津川

林道にかかる八号橋であった。

(記)

「タイム」 下降開始(一一:〇五)↓
二俣(一一:三〇五)↓下降終了(一
三:五〇)

冬の沢登り

冬期の沢は、雪に覆われて私達を拒んでいる。そんな中、最近冬の遊行を行うものが出てきた。遊行する地域は限られてい